

原動力は好奇心

私は「真実の口」には
噛みませんでした!

警視庁生活安全部 主事 / 平成14年度薬学研究科修了

広瀬 英里 ひろせ えり

薬学部から警視庁へ

平成14年3月、徳島大学大学院薬学研究科を修了し、今、私は警視庁で働いております。

警視庁というと、警察官であるかと思われ方も多いと思いますが、警察の中には様々な職種の人があります。警察官が主ではありますが、事務や会計職、通訳、心理職、整備士等様々な職種の人があります。

その中で私は、化学職として警視庁に入庁いたしました。

大学に入学する前、そしてその後もサスペンスドラマが好きで、物的証拠から犯人を追いつめていく科学捜査に憧れていました。また、大学の研究室で麻薬取締官の方と覚せい剤の分析方法の研究に携わらせていただいた事が今の職を選んだ大きなきっかけとなりました。

警察はおもしろい?!

「警視庁で何をしているの?」私がよく聞かれる質問ですが、身近にあつてもよく分からない、それが警察であるように思います。

新聞、テレビで分かる警察の仕事は、犯罪者を捕まえることですが、

それはもちろん、それ以外にもいろいろな仕事をしているなあと思いました。

私もドラマの科学捜査を想像していましたが、実際に、サスペンスドラマのような事を行っているかというところではありません。

化学職として入庁しましたが、生活安全部という所に所属し、火薬、高圧ガス等、危険物の安全を守る対策をしています。夏には、東京都内で行われる数多くの花火大会が安全に行えるように、それぞれの花火大会に行き、花火の設置状況を確認し、大会終了後も点検をしたりしております。

今までは花火をただ、きれいだなあと思って眺めているだけでしたが、花火大会を違った角度で見るとなると、花火業者さんの情熱、苦勞を知り、ますます花火が好きになりました。

花火見物でよく「たまや〜、かぎや〜」と言いますが、その珠屋さん、鍵屋さんの花火を見て、花火の事を学んでいます。今では、花火の打ち揚げも電気点火となり、配線が複雑に絡んでおり、スイッチでどんどん花火が揚がっていく仕掛けとなっています。そのため、左右一斉に花火が

揚がったり、音楽にあわせて打ち揚げが出来たりと高度な演出が可能となっています。

花火大会で歓声があがる場面は、やはり大きな打ち揚げ玉が揚がった時でしょう。大きな玉を近くで見たいと思う人が多いと思いますが、やはり大きな玉が打ち揚がるためには、安全が確保されていなければ打ち揚げられません。

私達は、その安全を確保する距離が観客席との間にとられているかどうか確認をしています。

花火大会、当日、風向きによって煙が観客席に向いていないだろうか心配したり、今までは違った目線で花火大会を見えています。花火大会では警備等で警察の方々をよく見かけられると思いますが、私達のように、あまり目立たないところにも花火大会を見守っている職員がいることを知っていただければと思います。

何でも興味津々!

今、私は警視庁に入って、4年目を

むかえています。今まで知らなかったことを、ほとんどゼロから初める事が多く、始めは戸惑いも多かったです。ただ、全く知らなかった世界に足を踏み入れて、知ることは面白いなあと思えました。すべて身の回りの事が新鮮で毎日、興味津々でいろんなことを教えてもらいました。

振り返ってみると、大学生活の中でも、興味を持って取り組んでいるとおもしろい事は隠れているなあと感じます。自分自身、どういふ事に興味をもっているのか、将来の職業の事など、いろいろな事が講義の中に種として入っていたなあと感じます。講義を受ける側の姿勢として、何かおもしろい種、興味の種を見つけようと思つて参加してみると何か見つかるかも知れません。

今でも私は日々、興味津々です。



平成16年度の警視庁職員採用ポスターに筆者(左上、白衣)が出演。